

災害に備えて

岩城北地区の自主防災訓練

5月28日の上島町総合防災訓練において、各地区でさまざまな訓練が行われました。今回はその中から岩城地区北集会所で行われた防災訓練をご紹介します。

岩城地区北集会所では、避難訓練後に地区、消防団、上島町社会福祉協議会との合同訓練が実施され、社会福祉協議会 福田地域福祉係長より防災について講話が行われ、身近なものを使った防災グッズの作成方法を学びました。講話では、『災害時における人と人とのつながりの重要性』のお話があり、防災グッズ作成では、ごみ袋カップ・新聞スリッパなどの作り方講座を地区住民の皆さんと一緒に実践していました。近年は規模の大きな地震が続いておりますので、ご近所の方と避難場所について確認するなど、小さな連携から防災を意識していきましょう。

消防署内救急技術研修会の実施について



心肺停止処置訓練状況

5月19日（金）弓削地域交流センター大ホールにおいて、消防署員による救急技術研修会を実施し、内因性疾患と外

令和5年5月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R5累計
火災	0	0	0	0	0	0	1
救急	13	7	10	3	0	33	181

（令和5年5月31日現在）

上島町消防本部・消防署 77-4118
消防防災課 77-3166

令和5年度全国統一防火標語

「火を消して 不安を消して つなぐ未来」



▲社協職員によるごみ袋カップの作り方の説明風景



▲参加者の皆さんとの実演の様子

傷想定症例に対するシミュレーション訓練を実施しました。それぞれの訓練実施後には、出席者全員による活動検討会を行い、活発な意見交換が行われました。

消防署では、現状の活動に満足することなく、的確な技術と知識を向上させるために、継続的な訓練を実施しています。



交通外傷処置訓練状況

えひめ救急電話相談 #7119について

えひめ救急電話相談#7119とは、適正な救急車の利用を推進するため、愛媛県内全域を対象とし、県民または県内に滞在している方からの救急電話相談に対して、365日24時間休みなく医療機関案内等を行う事業です。急な病気やけがをした際に、救急車を呼ぶか、医療機関を受診するべきか迷った場合には、#7119番に電話すると、相談員（医師・看護師）が緊急度の判断を行い、医療機関の案内や119番へのかけ直しが助言されます。運用開始は7月1日（土）からとなりますので、急な医療機関受診の判断に迷った場合にはご利用ください。

○プッシュ回線・携帯電話からは「#7119」へ
○ダイヤル回線・IP電話からは「089-909-9935」へ



今年の温州みかんは、全般に花付きが多く豊作となる表年（おもてどし）となる予想です。カンキツ品種の多くは、果実をたくさん成らせ過ぎた翌年は不作となる隔年結果（かくねけつか）と呼ばれる現象が見られ、最近では豊作と不作の格差が大きくなり安定生産の障害となっています。隔年結果の是正や品種の特徴を発揮するカンキツ生産に摘果作業は欠かせない作業です。今回はカンキツ類の摘果について解説します。

1 摘果の効果

摘果を行うことで、①果実肥大の促進（小玉化対策）、②果実の食味向上（増糖と減酸）、③隔年結果の是正などの効果が期待されます。

表1 カンキツ主要品種の摘果時期と目安

品 種	あら摘果	仕上げ摘果		備 考
		時期	葉果比	
温州みかん	7月中旬～	8月下旬～	20～30	極早生、早生の仕上げ摘果は早めに行う。着果過多樹以外の粗摘果は軽めに行う。
せとか、愛媛県試第28号（紅まどんな）、甘平、伊予柑、八朔、不知火（デコボン）など	6月下旬～	8月中旬～	80～100	有葉果を残す。あら摘果は内柵・上部を摘果、果実どうしが接しないように葉果比で50枚に1果程度に摘果する。不知火はあら摘果時に80～90%程度に強めに行う。
はれひめ、たまみ、ポンカン	7月中旬～	8月下旬～	40～60	はれひめは生理落果が遅くまで続き、たまみは初期肥大が緩慢なため、あら摘果は遅めに始める。

特に結果過多樹では樹勢の低下が心配されるので必ず行いましょう。摘果の目安に葉果比（ようかひ）として書かれていますが、1果

2 摘果の時期

の成長に必要な葉数のことです。ただ、葉数を数えることは難しく実際は感覚的に行います（表1参照）。

品種の特徴により目標とする果実の大きさはさまざまですが、大玉の中晩柑類は、肥大率の大きい幼果の早い時期から摘果を行うと効果的です。カンキツ類は開花の1か月後頃までは生理落果という小さな実が黄色く落ちて落ちる時期があります。摘果を始める目安は、生理落果が終了する6月末頃からあら摘果を開始し、ある程度果実が大きくなつてから仕上げ摘果を行います（表1参照）。

3 摘果の方法

摘果は度に行わず、「あら摘果」と「仕上げ摘果」に分けて見残し果実がないように数回に分けて行います。特に新芽の少ない表年樹では、粗摘果により着果負担の軽減を図るため樹の上部や内・柵枝の果実を全摘果します。不作樹はあら摘果

を行いません。摘果の方法は、枝に付いた果実を数個とる「間引き摘果」と枝単位に果実をすべてとる「部分全摘果」があります。「間引き摘果」は樹全体に均に着果させる方法で中晩柑類に適します。「部分全摘果」は着果の多い表年樹で成らす枝と成らさない枝を半々に作る方法で、成らす枝には成らさない枝の分まで着果させます。温州みかんやはれひめなど、やや小ぶりの果実の品種で行う摘果方法です。

摘果で取る果実は、品質の上がりにくい内・柵（すこ）の日陰果や樹勢低下に影響する樹の上部の果実、奇形果、傷果、塊つてなる果実の間引きが中心になります。まだ成長途中の若樹では先端から1/2から1/3の果実はすべてとり成長を促しつつ果実を収穫します。また、残す果実の目安として品種により実の付き方で判断します。果実の付き方は、大きく分けると直花実と有葉果があり（写真1）、直花実は、後期の肥大が緩やかで温州みかんなどに向きます。有葉果は果実肥大がよく大玉の中晩柑類に向

写真1 ※開花20日後



直花実



有葉果

いています。しかし、樹勢の影響により品種に適した果実でなくても傷や肥大に問題が無ければ成らせても差し支えありません。レモンは摘果を行なう産地もありますが、収穫時期が長く積極的な摘果を行なう必要はありません。摘果は品種に適した着果量や成らせ方があります。紙面で記述しきれないので詳細は指導機関にご相談ください。

※カンキツ類のご相談、園地見学のご希望があれば、しまなみ農業指導班岩城駐在所（☎75・2014）まで、お気軽にご連絡ください。